

播磨町町制施行60周年記念式典を挙行しました

企画グループ ☎079(435)0356

表彰受賞者 (五十音順・敬称略)

功労者表彰

5月29日に中央公民館で播磨町町制施行60周年記念式典を挙行しました。

式典では、記念映像の上映にはじまり、功労者表彰や感謝状の贈呈、協働のまちづくり宣言を行いました。



播磨町町制施行60周年記念式典

自治功労表彰

自治の振興発展に貢献されました

宇佐美 隆史
岡田 千賀子
小川 一茂
川北 健雄
河野 照代
藤原 秀策

文化功労表彰

教育・文化及びスポーツの振興に貢献されました

青木 久詞
木村 重圭
坂口 正信
清水 小由里
中山 昌久
溝上 敏夫
宮脇 貢
吉野 雅文
米津 実千代

感謝状

町政・地域・文化の発展に貢献されました

浅沼 律子
稲谷 勝
酒井 みつ江
高木 利夫
高田 美知子
田畑 世津子
人見 志のぶ
藤田 久代
柘田 恵子
山口 克己
藁科 文雄

社会功労表彰

社会福祉の充実並びに住民生活の安定に貢献されました

加藤 和子
岸本 和夫
小林 賢一
佐伯 富佐子
澤田 猛
古川 勝子
松本 典昭
吉川 健次

産業功労表彰

産業経済の発展に貢献されました

梅谷 良治
戎井 皓二
大西 康弘
下司 和志
藤原 敏夫
藤原 正照
松下 京一

町制施行60周年記念ロゴマークを制作いただきました

原田 菜摘

貴重な文化財資料を寄贈いただきました

浅原 重利
浅原 昌二
浅原 正文
多田 勝義



町制施行60周年である令和4年度を「協働」の推進に向けた「まちづくり元年」と位置付け、その新たな一歩として、「協働のまちづくり」宣言を行いました。

宣言は、これからの担う若い世代を代表して、町内小学校の代表児童と一緒にを行いました。

協働のまちづくり宣言

わたしたちは播磨町の未来に向かって、みんなで考え、みんなで話し合い、みんなの力を合わせて、人と人がつながるまちづくりを実現するため、「協働のまちづくり」を宣言します。

(令和4年5月29日宣言)

わたしたちは

1. 自分たちのまちをみんなでつくる、参画と協働のまちづくりを行います。
1. 誰もがまちに興味をもち、楽しく地域活動に参加できるまちづくりを行います。
1. 誰もが情報にふれやすく、まちの動きがわかるまちづくりを行います。
1. ひとりひとりが手を取りあい、地域コミュニティに根ざしたまちづくりを行います。

式辞

風薫る新緑の5月、この春の佳き日、播磨町町制施行60周年の記念式典を挙行いたしましたところ、ご来賓並びにご出席の皆さま方におかれましては、公私何かとご多用のところ、多数ご臨席を賜り誠にありがとうございます。高いところからではございますが、厚くお礼申し上げます。

とは、職員共々この上ない喜びでございます。コロナ禍にあつて、ご出席いただきました皆さま方に重ねてお礼申し上げます。

さて、播磨町は明治22年4月1日以来70余年の永きにわたり親しまれてきた兵庫県下で最後の村「阿閉村」から、昭和37年4月1日をもって町制を施行し、このたび60周年を迎えることとなりました。

瞬く間に世界中に蔓延した「新型コロナウイルス」は、私たちの生活、

地域のコミュニティ、行政の各種事業にも大きな影響を与えました。播磨町においても、多くの行事、イベントの中止が相次ぐ日々が続きました。

そうした中で、この60周年記念式典も不安な思いで準備を進めてまいりましたが、無事この日を迎えることができました。

た時もございましたが、その論争に終止符が打たれた時、住民の声として期せずして起こってきたのが、村名の変更と町制の施行でありました。急激に発展する播磨臨海工業地帯の重要な一角を占める本町が、独自の道を歩むのにふさわしい名前をとの願いが、阿閉村を播磨町に変更し、即日、町制を施行することでありました。

当時の人口は、9千363人。行政区域の面積もわずか6平方キロメートルと県下で1番小さな面積のまちでございました。その後、昭和47年3月に新島が、また昭和50年8月には東新島が埋立てを完了し、海岸部に大規模な工業団地が誕生いたしました。現在新島では60社以上の企業が操業

しております。そして、町域は9・13平方キロメートルとなりました。それでもなお、県下で一番小さなまちではあります。人口は現在3万4千700人以上となり、県下のまちでは一番多くなっております。

阪神間にも近く、交通至便なまちとして宅地化も進み、昭和50年代には急速に人口が増加し、学校や文化・体育施設などまちの基盤整備が急ピッチで進められました。その後コミュニティ施設や公園、健康福祉施設、下水道施設など、快適な都市環境の整備に努めてまいりました。

平成15年には住民の意願でありました「JR土山駅」の橋上化も完成し、平成23年土山駅南の町有地への病院誘致、工場跡



地であった隣接地には複合商業施設が誕生いたしました。大きく様変わりした土山駅周辺は、播磨町の玄関口にふさわしく、交通の要所として終日にぎわっております。

また、町制施行と同じ年に発見されました大中遺跡は国指定の史跡となり、15年前には県立考古博物館が開館いたしました。周囲の公園整備とあわせて緑豊かな空間として、町民のみならず多くの来訪者に愛されるスポットとなっております。財政面におきましても、50年前に造成された新島や臨海部の企業活動にも支えられ、県下でも上位の財政力を誇る自治体として堅実な歩みが続けてまいりました。また、平成27年には播磨町の南部を横断する町道「浜幹線道路」が全線開通し、そ

の沿線となる東部地域では今なお宅地開発が進められており、高校、中学、小学校が隣接する周辺環境は、以前の田園風景から大きく様変わりしております。

教育環境の充実、子育て支援にも力を入れてまいりましたので、子育て家庭の定住も増加し、若い方々からも「子育てしやすいまち」とのお声を多くいただいているところでございます。

こうした播磨町の今日の発展は、これまで町政に携わっていただいた多くの方々のご尽力と、先人たちの熱き思い、そして住民の皆様方の温かいご協力によるものと深く感謝いたしております。謹んでお礼申し上げます。この時代を引き継いだ私たちがさらに次の世代へと、このまちを良好な

形で引き継いでいくことが、今を生きる私たちの使命でもあると思っております。播磨町の子どもたちが大きくなった時、このまちに生まれ育ったことを誇りに思い、いつまでも心の中に、きらきらと輝き続ける「記憶に残る 温かいふるさと」であって欲しいと願っております。

SDGsの理念のもと策定いたしました「第5次播磨町総合計画」のキヤッチフレーズ「いいとこいっぱい笑顔いっぱい！みんなでつくるふるさとほりま」をモットーに、住民、地域、企業、各種団体、議会、行政がともに手を携え、活力と魅力あふれる「協働のまちづくり」を推進してまいります。皆様方のなお一層のご

支援とご協力を賜りますよう、切にお願い申し上げます。終わりに臨み、皆様方のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げますとともに、今後より一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。式辞といたします。

令和4年5月29日
播磨町長 清水 ひろ子



合理的配慮って？

河原 正明
播磨町総合相談・相談員（水・金曜日勤務）



地域には、色々な方が暮らしています。歩くことが難しく車いすや杖を使っている方、目が見えにくく白杖を使っている方、耳が聞こえにくく電話が使えない方、文字が解らなかつたり、人と話すのが苦手な方、病気で長時間活動できない方など、挙げると限りがありません。

そんな方が住み慣れた地域でお店に行ったり、公園を歩いたり、地域の資源を使いながら当たり前のように暮らしていくには、周りの人の何らかの工夫と手助けが必要です。その工夫と手助けを「合理的配慮」と呼んでいます。

この「合理的配慮」という

考えは、障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）においても取り入れられ、2021年の法改正により、民間の事業者においても法的に義務化されます。ここでは、「合理的配慮」とは何かを一緒に考え、事業者としてどうすればいいのかをお伝えします。

『1メートルの段差』
皆さんは、行きたいレストランの入り口に1メートルの段差があれば、どうしますか？
私は普段車いすで生活していますが、何気ない少しの段差が大きな障壁（バリア）になることがあります。感覚的

に言うと通常に歩ける方の10倍の高さを感じるのです。つまり、1メートルの段差は10メートルの段差は1メートルになるわけです。流石に行きたいお店でも入り口に1メートルの段差があれば、躊躇しますよね。でも、お店の方が簡易のスロープを用意してくれたり、少しお手伝いしてくれたり、1メートルを感じるバリアも超えることができます。

最近では、お店に車いすでも訪れても、すっと入り口のドアを開けてくれたり、椅子を外してくれるお店が多くなりました。そんなできる限りのお手伝い（合理的配慮）があれば、歩きにくくなったお爺さんやお婆さんと一緒に安心して家族ぐるみで食事が楽しめるのです。

▼問合せ
福祉グループ
☎079（435）2361
総合相談窓口
☎079（430）6000



合理的配慮に係る費用への助成

地域の活動拠点としてのコミュニティセンター

播磨町には社会教育施設として、野添コミセン、西部コミセン、東部コミセン、南部コミセンの4つのコミュニティセンターがあります。コミセンは中央公民館の分館という位置づけで、ダンス、太鼓、卓球、ヨガ、学習会など様々なサークルやボランティア活動が行われています。また各コミセン区域ごとに自治会長が集まる会議も開催しており、播磨町内で活動する方々の拠点になっています。



小学生が描く壁画プロジェクト（野添コミセン）

【まちづくりアドバイザーとは】 播磨町では、多様化・複雑化する地域の課題やニーズに、より細かく対応するため、2020年度より「まちづくりアドバイザー」を配置しています。自治会活動やコミュニティ活動、自主的なまちづくり活動について専門的な視点から支援します。

まちづくりアドバイザーがお届けする
まちアド通信 企画グループ
☎079（435）0356